

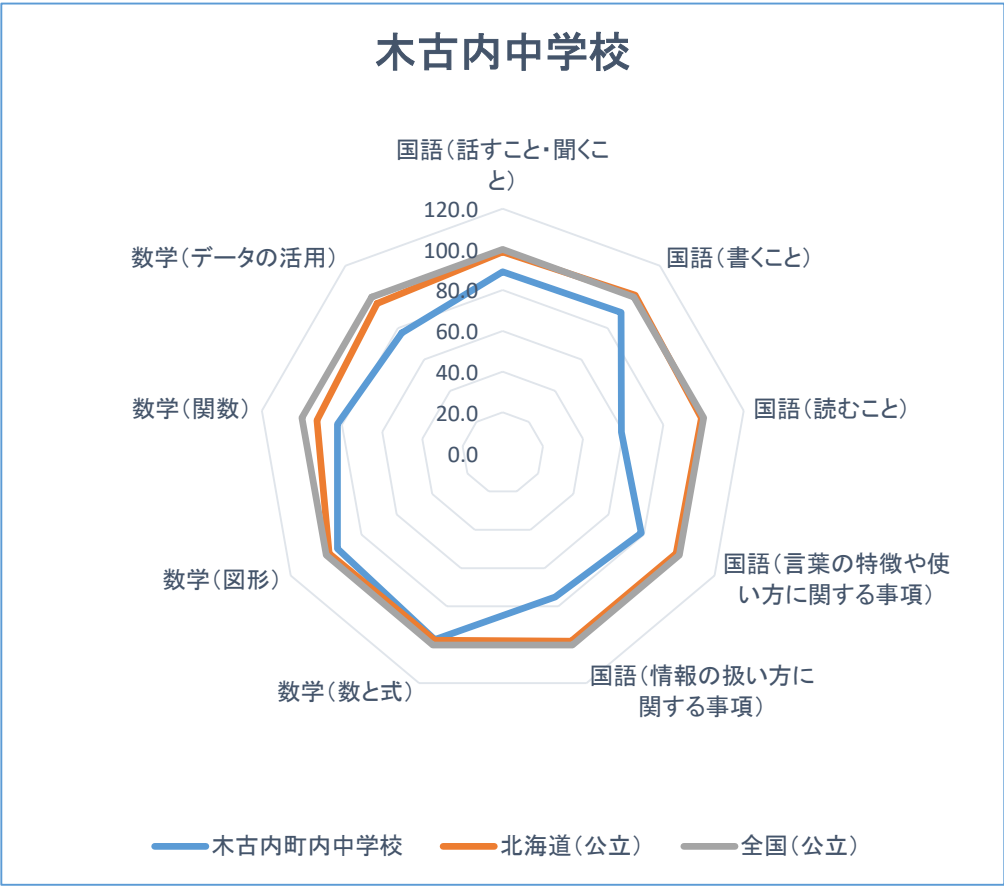
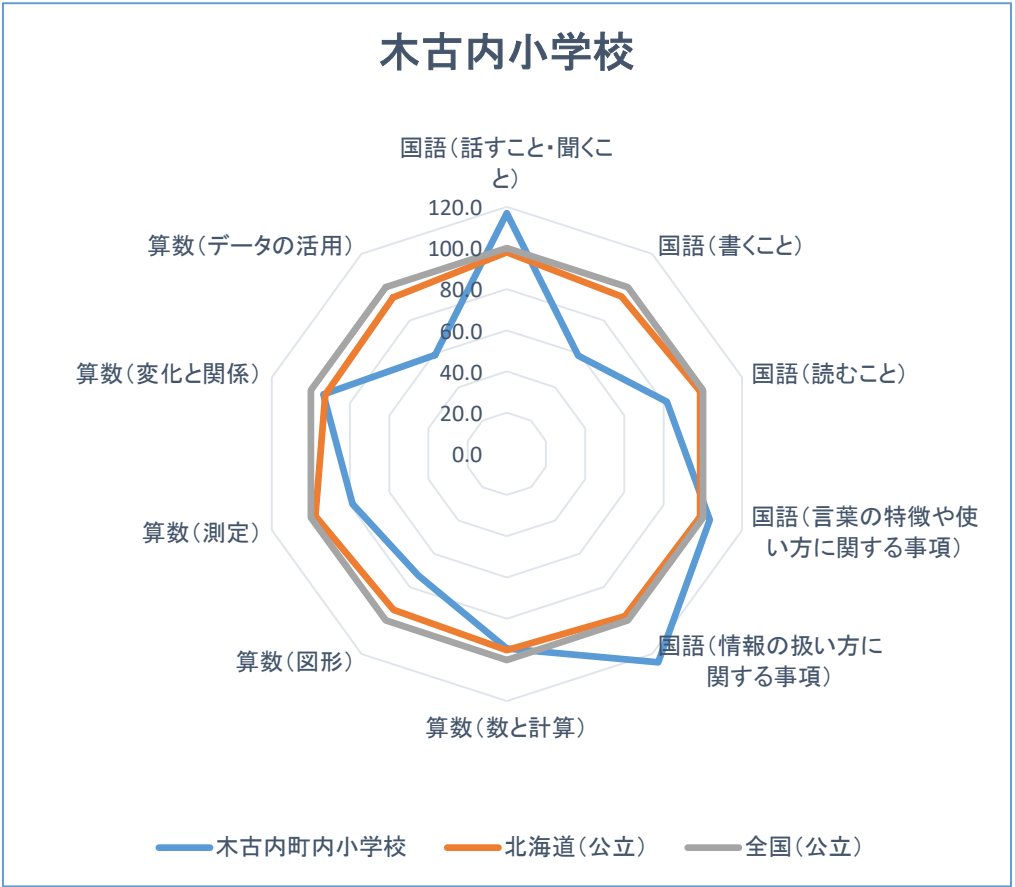
○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

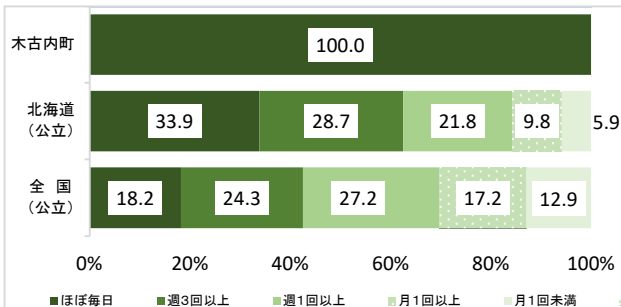
※中学校英語は4技能(聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと)の平均IRTスコア					
	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
木古内町	62	45	51	51	440
北海道(公立)	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499



○ 質問調査の状況

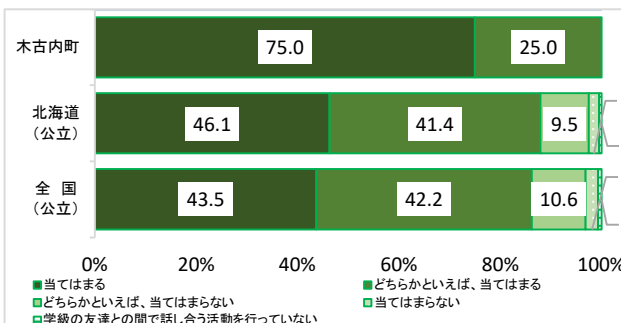
小学校 ＜学校質問＞

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



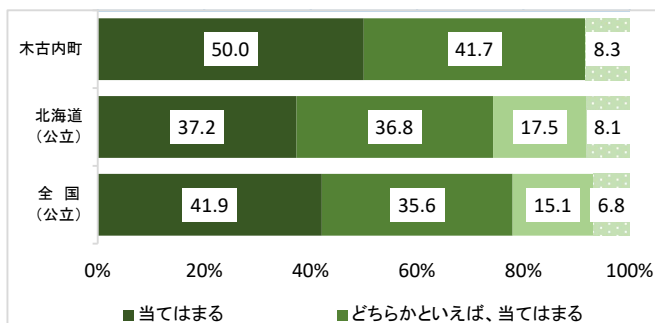
小学校 ＜児童質問＞

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



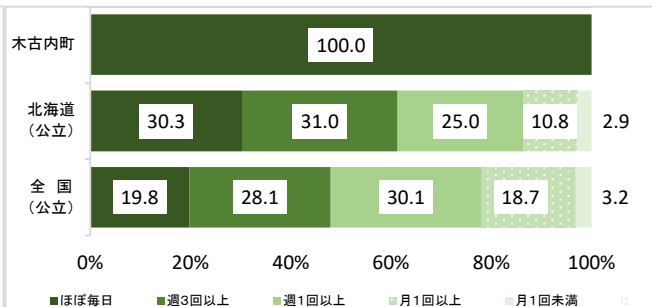
小学校 ＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



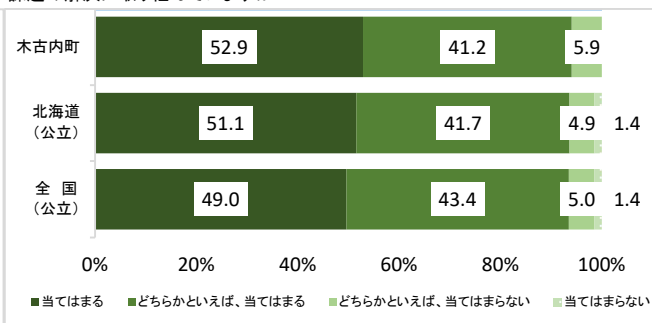
中学校 ＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



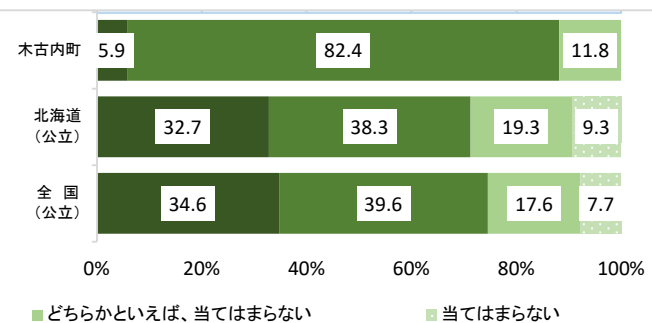
中学校 ＜生徒質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



中学校 ＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

【小学校】

国語の平均正答率は全国及び全道を上回りました。「話すこと・聞くこと」及び「言葉の特徴や使い方」において、全国及び全道を上回る一方、「書くこと」及び「読むこと」領域は全国及び全道を下回りました。特に複数条件の読み取りや、本文の言葉を引用して考えを書く問題に課題が見られます。

算数の平均正答率は全国及び全道を下回りました。全ての領域で全国及び全道を下回り、特に「図形」、「変化と関係」及び「データの活用」領域に課題があります。体積や小数倍の意味理解、表からの情報を読み取る力の定着が必要です。

【中学校】

国語の平均正答率は全国及び全道を下回りました。「話すこと・聞くこと」は全国と同水準ですが、「読むこと」、「書くこと」及び「情報の扱い方」において、課題が見られます。特に長文や複数の資料から情報を読み取り、根拠をもって記述する力に課題が見られます。

数学の平均正答率は全国及び全道を下回りました。全領域で課題が見られ、特に「関数」及び「データの活用」など、グラフや表から特徴を読み取り、数理的に捉えて説明・考察する問題に課題が見られます。

英語の平均IRTスコアは全国及び全道を下回りました。4技能全般において、語彙や文法の定着とコミュニケーション能力の育成が課題です。

○ 今後の改善方策

【小学校】

国語では、授業において設問の条件や要求の確認、根拠の引用、考えと理由・事例の関係整理を取り入れ、読解力や記述力の向上を目指します。算数では、体積と面積の関連付け、小数倍の視覚的確認、表の活用により、基礎・基本の定着を図ります。対話やICT活用といった強みを生かし、児童が主体的・意欲的に学べるよう授業改善に取り組めます。

【中学校】

国語では、要点・条件の正確な読み取りと、本文の根拠を基に論理的に書く学習を強化し、確かな読解力・記述力を育みます。数学では、基礎の定着に加え、具体的な場面やデータを用いて解法や理由を論理的に説明する活動を取り入れます。英語では、語彙や表現の反復学習に加え、まとめた英文の読解、簡単な英語で考えを表現・発信する言語活動の充実を図ります。

【総括】

児童生徒一人一人が『分かる』『できる』という達成感を持ち、主体的に学べる環境を目指します。また、対話的な学びを実現するため、ICTも効果的に活用した授業改善を推進します。ご家庭におかれましても、基本的な学習習慣の定着に向けたお声かけ・ご協力をお願い申し上げます。